

栄光の軌跡

第46回岐阜新聞スポーツ賞

試合復帰、日本新記録樹立、日本代表入り、世界選手権出場…。嵐のごとく過ぎ去った2019年。「本当に奇跡。去年の今ごろは全く想像できなかった」と振り返る1年は、来年の東京パラリンピック出場も視野に入る充実の年となった。スポーツ賞は高校3年の17年、全国高校総体男子400メートルで優勝初制覇を果たした同じ部活の仲間が受賞した賞。「まさか自分ももらえるとは」と喜ぶ。

昨年4月下旬の部活中。左肩に何かが当たる感覚があり、大きく膨れあがっていた。「骨肉腫」だった。手術やリハビリを経て、競技復帰は同12月。「久々に

石田 駆 (愛 院 大) 岐阜聖徳高出

陸上ジャパンパラ大会
T46クラス100、400優勝

《 2 》

パラ参戦、日本新を樹立



T46クラスの100メートルと400メートルで日本新記録を樹立し、世界選手権にも出場するなど充実の1年を過ごした石田駆＝7月、長良川競技場

全力で走れたときは本当にうれしかった」と喜びと同時に、自分でも予想以上のタイムが出た。「これで復帰できる」。中学から本格的に始めた陸上に戻る決意が固まった。

今年3月の記録会で試合復帰。ここでも手心えをつかむと、7月に岐阜市であったジャパンパラ大会で、男子100メートルと400メートルの

T46クラスに出場。2種目とも日本新記録を樹立した。8月には、初めて日の丸を背負い、パリの国際大会で専門の400メートルで優勝するなど瞬く間に飛躍した。

パラ参戦後、フォームも変えた。下半身を意識した走りだったが、左腕が思うように振れなくなったことから、左右の腕振りのパラ

は、2019年11月の世界選手権でも出場するなど充実の1年を過ごした石田駆＝7月、長良川競技場

いしだ・かける 中学で陸上を始め、400メートルで全国中学校体育大会、全国高校総体出場。7月のジャパンパラ大会はT46クラス2種目で日本新記録で優勝。11月の世界選手権は400メートル5位。各務原市在住。1999年生まれ。20歳。

「まずは（東京パラ）出場を決めて、金メダルを狙いたい」。20年はさらなる飛躍の1年にする決意だ。

（玉田健太）